

# 困った！ どうする？ はじめてのPTA

## 【自己紹介から…】

- 親が初めて教育の場に出て行くというのは、小学校のPTA。そこで子どもの状態とか、学校って何だろうとか、先生ってどうしているんだろうということについて、疑問に思ったりすごいなと思ったり…。松P研でいろいろな学校のPTAの様子や考え方を聞いてPTAっていいなと思うようになった。PTAは本当は楽しくて、自分のためにも子どものためにもなるということ、皆に伝えたいと思って、今日は友だちを誘って例会に参加しました。
- 小学校2年の子どもがいます。昨年広報委員をしました。1年生の親でわからなくて、なんとなく誰もやらないので引き受けました。最初は嫌々やっていたのですが、だんだん他の委員の方たちと気心が知れてきて、いろいろと自分たちのやりたいことを模索し、話し合っただけを記事にするということがとても楽しかった。「(PTA)総会に行こう」という記事を書いたので、その責任上今年は委員をしてないのですが総会に出席しました。
- 流山市の小学校2年生の親です。去年子どもが1年生の時に、広報委員をしました。入学式の時に委員を決めなくてはいけなくて、時間も押し迫ってきた中で、引くに引けない感じで引き受けてしまいました。お昼ごはんも食べずに、朝9時から2時ごろまでずっと委員会活動。出来上がったときはいろいろな思いがあって、とても感動した。貴重な経験をすることができ、出来上がったものにはとても誇りが持てた。今でも大事に保管してある。今年は本部役員の会計になりました。本部役員をする中で、いろいろなことが見えてきました。疑問に思っていることもあります。PTAの伝統を感じていて、改革を起こすということはたくさんの能力と時間と、いろんなものが必要なんだと感じている最中です。
- 流山市の新1年生の親です。自ら立候補して、学級・学年活動委員をしています。いろんな人と知り合いになれるかなとか、学校のことがわかるかなとか、子どもの様子も見えるかなとか、そういうプラスの感じで立候補しました。実際は、思っていたところと少し違ってました。幼稚園の時はとてもフレンドリーで小さい子を抱えながら皆和気あいあいとやっていたのですが、学校はそういう感じではないし、皆でフォローしあうという感じでもなかったのが、4月はちょっとへこんでいました。
- 中1、小4、小2の子どもがいます。中1の子が小1の時、引越してきました。PTAの委員というと、一部の手馴れたお母さんたちがやっているイメージがこびりついていて、自分は縁遠いと思っていました。でも小5の時、誰も引き受けてのらない役員選考委員を引き受けました。その次にはやはり誰も引き受け手がいないので、しぶしぶ学級委員をやりました。役員選考委員の時に、役員を引き受けてもらおうと電話をする中でちょっと人間不信にもなりました。でも話も通じる人もいるし、そうでない人もいる、いろんな人がいるんだなと



考えながらやっているうちに、それほどPTAは敬遠するほどのこともなく、自分は自分で入っていけばいいのだとちょっとわかってきました。総会をやっても、質問すら出ない。PTAが形式化していると思いが、どうしよう?とと思っているところです。



- 小2の子どもがいます。昨年は子どもが半年間病気で学校を休んでいましたので、PTAはそれどころじゃないという感じでした。途中から出席するようになって、総会にも出ていませんし、良くわからなかったのですが、お話の会や少人数学級を考える会などに参加することでいろいろなお母さんのお話を聞いて、やっぱりいろんな経験をもった人がいっぱいいて、お母さんたちと話すのは楽しいことだと思っているところです。学校外で聞こえてくる噂話では、PTAは人間関係が大変そうという印象を受ける。でも、来年あたりはPTA委員をしておいた方がいいかなと。いろいろな知識を持ったお母さんたちがいっぱいいるけど、普通に小学校に通わせているだけではそういう方たちとお話できる場がないようなので、PTA活動に参加したいと思っている。
- 小学4年生の子どもがいますが、ちょっと発達障害があるので週2回学校に付き添って行っています。うちの学校はPTAが15年以上なかったのですが、PTAがないと何か疑問を感じても親が話し合う場、意見を言う場がない。親がつながる場所がない。そこで学年・学級代表が中心になって保護者会組織を作りました。去年一年取り組んで、今年の春ようやく総会を開くことができました。規約もつくり、総会も開き、年間600円の会費を集めというちゃんとした組織にしました。その組織作りのためには、準備運営委員会ができて、私もそこに参加しました。学年代表を始め、公募の委員、スクールガードや読み聞かせボランティアの代表の方たちが、子どもたちのことを真剣に考えて意見をたたかわせ、新しいものをつくっていく、私もそこに参加できて本当に良かったなと思いました。お互い仲間意識もできたし、今後もこの人たちと協力して何かやっていきたいと思えるところまでできました。来年度は広報をやりたいと思っています。広報の組織がまだ何もない状態なので、だからこそ自由にいろいろできると思います。今は希望に燃えています。
- それぞれのPTAの形があっていいと思うが、長くやっているうちに、ちょっとのずれが重なっていくと、原点から離れていってしまう。常にPTAとは何なのかという学習が必要。自分たちの内輪の研修だけでは不十分ではないか。外へ出て、松P研のようなところの方が自分たちのPTAがよく見えてくるのではないか。
- 私も最初は、委員決めの時 延々と続く沈黙に耐えられなくて、しかたなく手を上げて広報委員になってしまった。積極的にPTA活動をやろうという気持ちではなかった。最初は仕方なく委員になっても、広報というのは皆で話し合っって作り上げていくという作業が必ずあるし、出来上がったものを目の当たりにすることができる。達成感が非常に強い委員会。それに魅せられてしまって、PTA活動に引き込まれてしまった。でも、子どもの関わるいろんな問題が学校の中で起きてても、そういうことについて全く話し合わないで、バザーと廃品回収とベルマーク収集、お金をかせぐことばかりやっているPTAに大いに疑問を感じた。子どものことを話し合う場もないし、講演会などの学ぶ場もない。

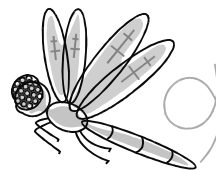
## 保護者があまり活発な話し合いの場になっていない



- 授業参観の後の保護者があまり活発な話し合いの場になっていない。誰にとっても一番身近な懇談会が、出席した親が考えさせられるようなものになれば、出席する人も多くなると思う。そこから出てきた問題を吸い上げて、学校全体の問題として取り上げてくるのではないかと思う。でもなかなかそこまでいかない。皆さんのところはどうか？
- うち、先生が用意されたプリントに沿ってお話をされて、何か質問ありますかと聞かれるのですが、親の反応は少ない。ただプリントを読み上げて終わりの保護者会ならば、そのプリントを配るだけでいい。先生からの一方通行で、意見交換の場になっていない。
- 私がすごいなと思ったのは、ある学級委員の方が、保護者会の前にPTA委員全員と担任の先生で打ち合わせをセッティングしたこと。どんなテーマで話し合いましょうかと。先生もこんな話をしようと思っているんだけどどうだろうかとか、それに対して委員からは親の今の最大関心事はこんなこと、というような情報交換をして、じゃあ今度の懇談会はこんなことを話しましょうとか、こんな資料を用意しましょうとか、打ち合わせをした。これはとてもすばらしいと思った。先生も何を話したらいいかわからなくて不安なんだと思う。わからないから通り一遍の話しかしない。親から一言ずつ言ってもらっても、それだけで終わり。公開個人面談をやっているみたい。
- 先生もいろいろ話しても、親からの反応がないと、警戒してしまう。
- 私も懇談会の前に、先生と学級委員二人で打ち合わせしたことがある。一人の先生とはうまく行って活発な懇談会になったんだけど、ある先生は「委員の方は話さなくていいですよ。私がやります」と言われてしまった。クラスの子もたちを先生はどう見ているのか、親たちはどう見ているのか、共通の問題は何かということをみんなで話し合っ、学校ではこうしたい、家ではこうしたいということ話し合えたらと望んだのですが。
- 「子どもが人質にとられているから、先生にものを言えない」と言う人がいるけれど、そういうことこそ、公の場で話をするべき。先生をつるし上げるのではなく、皆で話し合ったほうがいいと思う。
- でも公の場で言うのは勇気がいること。言ったことで孤立したらどうしようと考えてしまう。躊躇しているうちに懇談会が終わってしまう。
- 親には権利がある。だって子どもが大事だと思う気持ちは一番なんだから。疑問を感じたら「どうしてそういうことになったのだろうか？」と訊ねることが大事。
- 病気の子どものことで先生と話し合ったが、話がかみ合わなかった。だんだん感情的になってきて、私の言い方も攻撃的になってきてしまった。そのことで子どもに何か跳ね返ってくるのではと心配した。高校の教師をしている姉に相談したら、「そういうことで子どもへ報復的な態度を取る先生はいない。言われて先生もショックを受けるかもしれないが、それを子どもに返そうという気持ちにはあまりならないよ」と言われて、ホッとしました。1年後の今年の個人面談では、昨年の話への配慮があり、「いろいろ考えていてくれたんだなあ」と思った。
- 先生も親との関わり合いの中で成長していく。諦めないでそういう積み重ねができる

いい。先生になるために、大学でPTAのことを学んでくるわけでもないし、懇談会をどのように行うかもやってくるわけではないでしょう。先生になってはじめて学ぶのだから、活発な懇談会を経験したことのない先生は、本当にどうしていいかわからないだろう。先生同士の交流が深い学校だったら、先輩の先生から伝えてもらうこともあるだろうけど、そういう交流も今は時間的に余裕がなくてできないようだ。親が教えてあげればいい。

- PTAは先生を育てる場所でもある。



### **保護者会だよりを出そう！**

- 子どもの手に合った雑巾の大きさとか、毎日が道徳だから毎日けんかなどをしてもいいとか、保護者会での先生の話がとても良かったので、それを保護者会だよりとして出して、出席しなかった人にも知らせたいと思った。先生も了解してくれたので、出しました。そうしたらとても反響があった。1年生の親は雑巾の大きさ一つでもとても悩むんです。そういうことを話してもらえたんだということで、次から出席率がとても良くなった。出席できない人は、その手紙をととても楽しみにしていると言われた。委員決めも楽になりました。
- いきなり懇談会に出てきて何かを話すというのはみんなしんどい、大変。何か思ってもなかなか言えない。これと同じなのにと思ったり、先生に対してもっと優しくしてもらいたいと誰かが言っている時に、私もそう思うと思っても、言おうと思っているうちに終わってしまう。
- 私は学年・学級委員をやっていた時に、地域の会場を借りてクラス懇談会を学期に1回行いました。中三だったので、進路の問題などがあり、30人くらいの出席がありました。その参加の呼びかけと報告を文書にして出しました。先生にこういうのを出したいと申し出たら、「いいですね」と言って、印刷と配布をしてくれました。先生は助かるなあと思ってきていたみたい。先生は歓迎してくれるけれど、他の学級の委員からは「出せる人はいいよね」という反応。でも、こういうのは出せる人が出せばいいんで、学年・学級委員だから必ず出さなくてはいけないというふうにしなければいい。委員じゃなくても作りたいという人がいたら作ってもらえばいい。そんな杓子定規に考えなくてもいいのに。
- クラスでこういうことをやっているんだよということを学校全体に知らせるという意味で、PTA広報紙に懇談会の様子を載せるということをやってきました。クラスに一人ずつ広報委員がいるんだから、それは可能。広報委員が出られないのなら、他の学級委員に原稿を書いてもらえばいい。

### **私たちのPTAでは、広報紙に掲載する内容が毎年同じなんです**

- いじめのことについても、最低限度の内容でも伝えて、クラス全員で認識を共有し、ともに考えあうことが大切。
- いじめがあるとわかった時点で、いじめって何だろうということをPTA全体で考えて

いく方向性を作り出せるといい。広報紙でそういう取り組みを積み重ねて、PTA全体の動きにしていくというのも広報紙の役割。

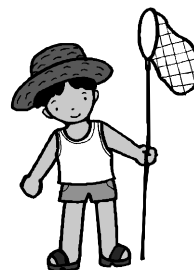
- クラスの中の全員に同じことを知らせるとするのが一番民主的なやり方だと思う。全員に知らせるとなると、一番肝心なところを書けないかも知れないけれど、でも全員にここだけは知っておいてもらいたいということになる。レベルとしてはすごく下がるかもしれないけれど、皆が同じ問題を持つということがスタート。
- その状況知らないお母さんもいる。知ってもらった上で、皆で共有していかないと前に進まない。そのための広報であり、懇談会。低レベルですまないような状況になる前に、早めに手を打たないと。
- 皆に知ってもらいたい、考えてもらいたいということを広報で発信していきたいと考えた。学級PTAが学校の基本だから、学級PTAで話し合ったことを運営委員会・常任委員会に出してもらい、そこでこれはクラスだけの問題ではなく、学校全体で取り組むべきだとか、広報で取材したほうがいいね、というようになるのが理想。子どもがいる学級PTAが盛んにならなかつたら、学校全体が活発になるはずがない。
- ネフローゼの子どもが入った学校のトイレはまだ水洗でなくて、暗いんですって。トイレに行かなくてはいけないのに、
- そんなトイレなので行かれないわけ。それを知った広報の人が、広報紙で取り上げたら、そのことがどんどん広まって、トイレを取り替えようという運動になって、その結果予算がついて、トイレが取り替えられたそうです。病気のことを皆に理解してもらわないとそのような運動には結びつかなかった。広報紙が強い力になった。
- 一号目の広報紙にアンケートをつけました。広報紙を読んだ感想と、取り上げてもらいたい記事は？という質問項目です。アンケートの回収は結構良くて、広報って読んでもらっているんだな、子どものこと・学校のことを知りたがっているんだなという結果でした。その結果を受けて、次の号は1面で「PTAのことを知ろう」という特集にして、役員へのインタビューをしました。それから給食については栄養士の方たちに取材して記事にしました。試食までさせてもらって…。最後は「学校のことを知ろう」ということで、1年生の親からの「もしいじめがあったらどうしましょう」とか「先生はどう対応していただけますか」とか、「親として何をしたらいいのでしょうか？先生の視点から保護者に望むことは何ですか」「低学年で学校のトイレがいやで我慢してしまう子がいるんですが何とかならないでしょうか」というような質問に、校長先生・教頭先生に答えてもらいました。ちゃんと対応してくれているという感じがしてとても安心しました。
- 私たちのPTAでは、広報紙に掲載する内容が毎年同じなんです。1年生で初めてのことだったので言われるままに考える力がなかった。学校の行事を追いかけているだけで、本当に聞きたいことはそういうことではないような気がしていたんですが、こういう広報紙があるんだとびっくりしました。
- 広報委員が始めて委員になった人ばかりだったら、何をやればよいかわからなくて、とりあえず昨年度のものを見て同じように作って、1年間が終わってしまう。連Pの研修会などで、PTA広報とは何かという話を聞いたり、他校のPTAの広報紙を見て、いろいろ学んでいく。



- 連Pの研修会の講師としていつも来る大内さんのお話は、PTA広報紙なんだから、まずはPTAの活動を報告する場だよというところから入っていく。学校行事は親の視点で見ていく。
- 声を出していえない人の声をすくいあげるのも広報紙の役割。

### 役員選考方法もいろいろあって、どこも苦労している

- 全国PTA問題研究会で発行している、「PTA入門シリーズ」はとても参考になりましたよ。「総論編」「活動編」「広報編」の全3巻出ています。この本を読んですいぶん学びました。PTAの中で研修ができるといい。何もわからないまま委員になって、ちょっとわかりかけたところで1年が終わってしまう。次の年やらないと、積み重ねができない。そんな感想を持つ人たちが「委員研修」をしてほしいという声が出て、研修をするようになりました。
- 研修をしたことがないPTAでは、やったことがないからその必要性や良さがわからない。何をしたら良いのかもわからない。
- 研修以前に、そもそもPTA会員もイヤイヤ会員になっている感じ。なるべく活動をスリムにしていこうとしている。仕事をしている人も多いし。学校に出てくる回数を減らそうと仕事を割り振って、割り振りどおりのことをやっている状況。それ以上やりたいと思う人がいてもなかなかそれを言い出せない状況だと思う。
- 一人一回は何かをやりましょうという暗黙の了解があっても、それが成り立っていかなくて、毎年何かを引き受けている人が出てきてしまう。広報委員もクラスから一人ではなく二人でペアを組んで出るというような体制は取れないかという意見も出るのだけれど、「私1回やったから」と言う人が多くなると二人は出せないのではないかという意見も出てくる。
- 何でもやってみればいいのに。何もやらなければ前に進まない。うちではクラスから1名ではなく、若干名ということに変えましたよ。
- 昨年選考委員をしたのですが、会員からの推薦用紙がなかなか回収されない。ほとんど推薦がなくて、内輪だけで決めているという感じです。
- 役職ごとの推薦ではなくて、役員全体の推薦にしたら、もう少し回収できると思う。
- 今は地域のつながりが薄くなっているから、学校に誰がいるのかわからないし、どんな人もわからない。だから推薦ができなくなっている。
- 選考方法もいろいろあって、どこも苦労している。できるだけ会員皆で選ぶ形に近づきたいと思って努力しているところも多い。どんないい選び方にしても、引き受ける人がいなければ難航するんです。いい制度を作っても、皆が喜んでPTAに関わってくれなければその制度も生きない。学級懇談会がとても大事というのは、懇談会でいろいろな話をして、こんなことでも言っているんだというような関わりができていれば、そこでは一人1回なんていわなくても、できる人が何回でもやるし、できない人はそれをサポートするという雰囲気が出ていく。懇談会で密な話し合いができていれば、クラス委員もクジ引きしなくたって、登録制にしなくたって、スムーズに決まっていく。



その延長で、そういうクラスがいっぱいあれば、役員も同じように引き受け手が出てくる。いい組織を作るのと、その組織の中でいいかわりを作るというその両方が大事だと思いました。

**目の前にいる子どもたちが学校や家庭、地域で楽しく、  
生き生きと暮らせるようにしていきたい。それがPTAの一番大事な仕事**

- イヤイヤしかたなく広報委員になっても、広報委員会の中でとてもいい話ができる。仕事をしながら委員をして、毎回出席できなくても、出られるときにちゃんと自分の意見を言うということ、それもとても大事なこと。
- 「広報委員になるにはワープロを打てなくてはいけない、文章を書けなくてはいけない。そういう人広報委員になるんだ」ということを言う人がいるけど、そうではない。コミュニケーションをとるのがとても上手な人、皆を励まして雰囲気盛り上げる人もいれば、絵が上手な人、文章が上手な人、パソコンの達人、本当にいろんな人がいて、それぞれが自分のできることを出し合って、互いにささえ合って、一つのものを作り上げていくのは本当に楽しかった。いろんな人がいるって、こんなにいいことなんだと広報委員をやってはじめて実感しました。
- PTAというのは、先生と親の組織だけれど、学校とは別の組織で、互いに対等な関係なんだということを学びながら、広報紙をつくる。
- それを正確に学べれば、広報紙として結構おもしろいものができてくる。そこが抜けてしまうと学校行事を追うだけのものになってしまう。
- 自分たちのPTAだけで閉じこもっていると、それがあたりまえだと思ってしまう。連Pの研修会へいくと、いろいろなPTAの広報紙を見て、自分が常識だと思っていたことがくつがえされていく。他の学校のPTAと交流を持つことはとても大事。
- いろいろな委員会で話し合いが活発になっていくと、PTA全体がいい方向へ行く。
- うちのPTAでは、学級活動の中で子どもたちを交えて、先生と親の三者で年1・2回交流会を行う。地区でも交流会を行っている。そこに参加することで自分はPTA会員なんだという認識を持つ。うちはPTA会費をそれぞれの会員に振り込んでもらっている。会費を自ら振り込むことで会員としての意識を再確認してもらえる。
- 子どもと一緒に参加する行事には参加しても、子ども抜きの茶話会になると参加が減ってしまう。
- でも、親の顔が互いに見えるということは大事。集まる場所を一つでも多く作ることはPTAの一つの役割。親同士が知り合うというのはPTAの最初の役割だと思う。
- 自分の子どもは今小学生だけれど、この先中学・高校生になったらどうなるんだろう、そういう話を先輩のお母さんたちに聞きたいと思っている人たちが多。子育てについてのおしゃべり会のようなものを求めている。
- 私たちのPTAでは、年に1回、総合懇談会を開いている。「子育て」「放課後の子どもたち」といったようなテーマを三つぐらいつくって…。学校の教室を借りて、先生も参加して。時間的には平日の放課後。



- こういうことを言ったら否定的にとらえられてしまうのではないかという不安があって、なかなか自分のことを話せないかもしれないけれど、話は聞きたいと思っている。子どものこと・学校のことを話し合う場がたくさんできて、こんなことを言っても、意見が違って大丈夫なんだ、ちゃんと聞いてもらえるんだという経験を積み重ねていけば、警戒しないでざっくばらんな話し合いができるようになるのではないか。
- P T Aのいいところは、考えが違う人がいろいろいて、下手するとけんかになってしまうこともあるけれど、それでも何とかうまく共通するところを見つけてやっていくということを経験できること。大変だけど楽しいのは、皆が違うこと。
- 一番大事なのは、いい学校で、いい環境で、親たちも学びながら、子どもがちゃんと育っていくためには何が大事なのか、ということをつつも話し合っていくこと。
- 働いていても、小さな子がいても、親の介護の問題を抱えていても、何らかの形で皆が関われるようなP T Aに、そして皆が関わってよかったと思えるようなP T Aに、楽をするのではなく、大変でも支えあえてよかったと思えるようなP T Aにしたいですね。それはいろんな形があると思うから、工夫して、しかもいろいろなP T Aのいいところを参考にしながらできるといいなと思います。一つの形にとらわれず、柔軟にね。
- 今日皆さんのお手元に、松P研の前代表の田辺さんが1983年の会報に書かれた文章をお配りしました。ぜひ読んでいただきたいと思います。子どもたちが学校で苦しんだり、つらい思いをしたりという状況は今も変わらずあると思います。その時に親がのほほんと楽しむことばかり考えていいのか、子どもが幸せになってほしいと願うのはどの親も共通する思い。先生も目の前にいる子どもたちが豊かに成長してほしいと願っているはず。ならば、目の前にいる子どもたちが学校や家庭、地域で楽しく、生き生きと暮らせるようにしていきたい。それがP T Aの一番大事な仕事だということ、この田辺さんの文章で再確認しています。

(まとめ：浅井)

## 参加者の感想

- ☆ 勉強になりました。人生の先輩方の話をふだん聞く機会が少なく、良い時間がすごせました。「井の中のかわず」状態で、他の学校の活動が自分の学校とは違う点もあるのがわかり、びっくりしました。私は今まで受身の態勢で、与えられたことをこなしていくだけの考えしかなかったのですが、自分が動く力を持たせてくれる大きなきっかけをいただきました。
- ☆ 来てよかったです。今までの流れにとらわれなくて、自分で考え、勉強して（疑問を持って）、P T Aに積極的に参加していきたいと思いました。P T Aをお友だちづくりの場だと思っていました。
- ☆ 参加者が多くてたくさんのP T Aの現状が聞けてよかったです。また同じメンバーで、その後どうなったかも聞いてみたいです。
- ☆ 新しい人たちと、久しぶりに足元の話、P T Aの基本のような話ができ、本当に楽しかったです。ぜひ、2ヶ月に1度でも、新人の足元の話をしていきたい。他の学校の人も誘いたいのです。



- ☆ 自分のできる身近なところから・・・少しでも楽しくPTA活動できればいいなと思いました。
- ☆ 例年通りのことをやっている学年活動にしても、プリントを読むだけの保護者会にしても、あまり疑問を持たずにいましたが、自分が行動を起こせば変わっていく、良くなっていく可能性があるのだということがわかりました。何だか前向きになれそうな気がします。
- ☆ 学校のお母さんたちに向けて、エネルギーを自分から奮い立たせる勇気が出せないでしたが、できるところから少しずつでもいいのかな・・・と思えるようになりました。まずは懇談会で「子どもの成長が良くわかるように話してほしい」と先生に言ってみようと思います。(言葉を選んで)